

iPlayer 3

12NC 910403327101

アイブレイヤー 3

ユーザーガイド 取扱説明書

この度はiPlayer3（アイブレイヤー3）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。このユーザーガイドではiPlayer3の主要な機能、操作方法について説明しています。

取付方法に関しては別紙「iPlayer3 取付方法」をご参照ください。

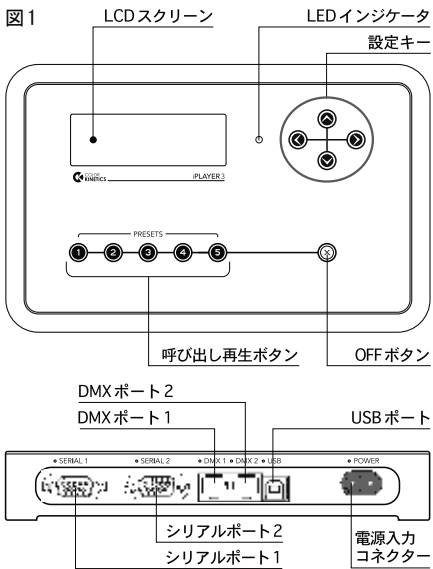
この商品に含まれているもの

- ・ iPlayer 3 本体
- ・ 電源ケーブル
- ・ USB ケーブル
- ・ 取り付け用プレート
- ・ ユーザーガイド

1. iPlayer 3 の基本機能

- ・ 本体のスイッチで演出の呼び出し再生（最大5つ）
- ・ 再生中のショーの輝度調整
- ・ Color Play 3 で作成、ダウンロードされた演出の呼び出し
- ・ iPlayer 3 に内蔵されている演出効果の呼び出し再生
- ・ タイマーによる演出の呼び出し再生
- ・ DMX アドレスの設定、チェック

2. 本体の構成



3. 本体の操作

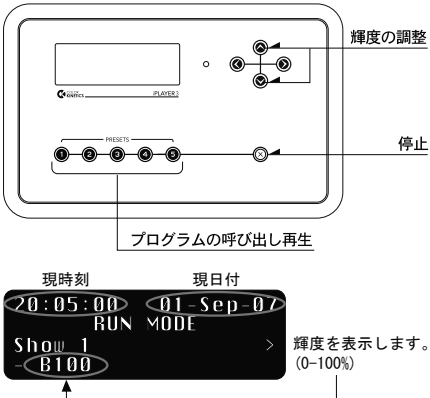
本製品は接続状態によって3つのモードに切り替わります。コントローラ単体で演出の再生を行っている場合にはRun Mode（再生モード）、本体のボタンを使用して設定を行なう場合にはConfig Mode（設定モード）、USBでパソコンと接続している場合にはUSB Modeとなります。Run Mode、Config Modeの場合、本体のボタン操作は以下の図ようになります。USB ModeについてはColorPlay3のユーザーガイドをご参照ください。

3-1. Run Mode（再生モード）

電源を投入すると自動的にRun Mode が立ち上がります。フロントパネルの呼び出しスイッチを使用して5つまでの演出の呼び出しとその輝度の調整が可能です。LED インジケータには先頭アドレスのライトの点灯色が確認できます。

工事店様へ、工事が終わりましたらこの取扱説明書は必ずお客様にお渡しください。
お客様へ、この取扱説明書はお読みになった後も必ず大切に保管してください。

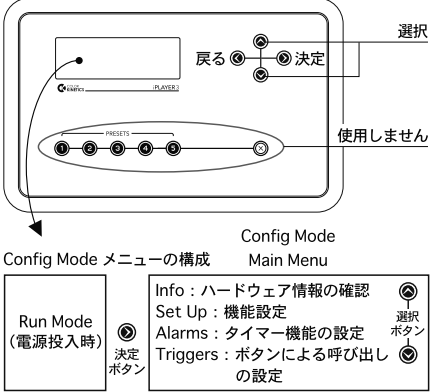
図2 Run Mode 時のボタン設定



3-2. Config Mode（設定モード）

呼び出しを行うプログラムの設定や、その他機能の設定はConfig Mode で行います。Run Mode から決定ボタンを押すことでConfig Mode のメインメニューに切り替えます。メインメニューには以下の4つがあります。

図3 Config Mode 時のボタン設定



4. 設定

4-1. 日時設定

Config Mode から“Set Up”を選択し、さらにSet Up Menu から“Set Data & Time”を選択します。



画面にしたがって、まず年月日を日、月、年の順で入力します。上下のキーで数字を合わせて右のキーで決定/次の項目へ移動します。続いて同様に曜日、時、分、秒と入力していきます。入力が完了すると、“Set Data & Time”の画面に戻ります。



4-2. 呼び出し設定

本体の呼び出しボタンを使用して、再生する演出の選択、設定を行います。シリアルポートからオプションのキーパットを使用して呼び出しする場合も、同様の設定を行います。設定には、ColorPlay3で作成して、iPlayer3

にダウンロードした演出（Downloaded Show）を呼び出す方法と、iPlayer3に内蔵されている演出（Canned Effect）を呼び出す方法の2つがあります。

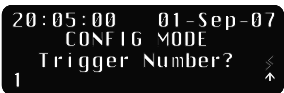
出荷時には

- ①カラーウォッシュ（5秒）
- ②クロスフェード 緑⇄青（10秒）
- ③クロスフェード 黄⇄赤（10秒）
- ④レインボー（5秒）
- ⑤スweep（DMX 1黒のバックに緑、DMX 2黒のバックに赤 85秒）

のデータが入っています。

4-2-1 . Downloaded Show の呼び出し設定
あらかじめColorPlay 3を使用してiPlayer3に演出がダウンロードされていることをご確認ください。

1. Config Mode から“Triggers”を選択します。“Trigger Number?”と表示されるので、設定したいトリガーナンバー（呼び出しボタンの番号）を選択して決定ボタンを押します。



【注意】

本体で呼び出しが可能なトリガーは1～5までですが、トリガーナンバーは最大255まで設定が可能です。オプションのキーパッドを使用すると、8つの演出を呼び出す事が可能になります。キーパッドは最大で2台まで接続可能です。キーパッド接続時の設定に関しては4-5「1.シリアルポートの設定」の項をご参照ください。

2. “Show Type”で“Downloaded Show”を選択すると、“Show File?”と表示されます。上下の選択キーでダウンロードされている演出のファイルネームが表示されるのでその中から1つを選んで決定します。“Press>to Continue”でもう一度決定キーを押して次に進みます。



3. 次に演出終了後の動作設定をします。以下の3つから選択することが可能です。

- ・ Loop This Show（ループ：繰り返し）
- ・ Light off（1回再生後消灯します。）
- ・ Jump to Trigger（別のショーへジャンプ（ジャンプ後はリビートになります））

3-A Loop This Show の設定

End Behavior で“Loop This Show”を選択します。次に“Transition time”（呼び出し方法）の設定をします。呼び出し方法は次の3つより選択可能です。

- ・ Cross Fade（クロスフェード）
- ・ Fade out & in（フェードアウトしてからフェードイン）
- ・ Snap（スナップ：瞬時に切り替わり）

Cross Fade と Fade out & in を選択した場合には

次の画面で切り替えるまでの時間を設定します。まず、Trans time(min) で分を入力し、決定後にTrans time(Sec) で秒を入力します。決定をすると“Save changes?”が表示されるので決定キーを押して終了します。“Snap”を選択した場合には移行時間の設定はありません。

3-B Light offの設定

End Behavior で“Light off”を選択します。次に“Transition time”（呼び出し方法）の設定をします。以降の詳細については3-Aをご参照ください。

3-C Jump to triggerの設定

End Behavior で“Light off”を選択します。“Jump to trigger#?”画面でジャンプするトリガーを選択します。次に“Transition time”（呼び出し方法）の設定をします。以降の詳細については3-Aをご参照ください。

4-2-2 . Canned Effect（内蔵演出パターン）呼び出し設定

1. Config Mode から“Triggers”を選択します。“Trigger Number?”と表示されるので、設定したいトリガーナンバー（呼び出しボタンの番号）を選択して決定ボタンを押します。



【注意】

本体で呼び出しが可能なトリガーは1～5までですが、トリガーナンバーは最大255まで設定が可能です。オプションのキーパッドを使用すると、8つの演出を呼び出す事が可能になります。キーパッドは最大で2台まで接続可能です。キーパッド接続時の設定に関しては4-5「1.シリアルポートの設定」の項をご参照ください。

2. “Show Type”の表示画面で“Canned Effect”を選択します。“Effect Type?”と表示されるので選択キーを使用して設定したいエフェクトを選択します。



エフェクトは以下の中から選択できます。

- ・ Fixed Color（固定色）
- ・ Cross Fade（クロスフェード）
- ・ Rainbow（レインボー）
- ・ Random Color（ランダムカラー）
- ・ Sparkle（スパークル）
- ・ Color Sweep（カラースweep）
- ・ Color Streak（カラーストリーク）

2-A-1 Fixed Colorの設定

“Effect Type?”の表示画面で“Fixed Color”を選択し決定キーを押します。次に固定色のベースとなる色を選択します。



“Fixed Base Hue”の表示画面で以下の中から選択します。

- ・ Red（赤）
- ・ Yellow（黄）
- ・ Green（緑）
- ・ Cyan（シアン）
- ・ Blue（青）
- ・ Magenta（マゼンタ）

次に選択したベース色の微調整を行います。まず、“Fixed Hue Adjust”の表示画面で、上下キーを押すことで、ベース色の色相を調整することが出来ます。LED インジケータの色を見ながら調整してください。続いて同様にSaturation（彩度）とBrightness（輝度）の調整も行い、決定キーを押します。

2-A-2 テスト及び、呼び出し方法の設定

“Test Effect”が表示されたら、決定キーを押して設定したエフェクトのチェックを行います。実際のライトが接続されている場合は、設定した演出を再生します。確認が完了したら、決定キーを押して次に進みます。

次に“TransitionType”で呼び出し方法の設定をします。

呼び出し方法は次の3つより選択可能です。

- ・ Cross Fade（クロスフェード）
- ・ Fade out & in（フェードアウトしてからフェードイン）
- ・ Snap（スナップ：瞬時に切り替わり）

Cross Fade と Fade out & in を選択した場合には次の画面で切り替えるまでの時間を設定します。まず、Trans time(min) で分を入力し、決定後にTrans time(Sec) で秒を入力します。決定をすると“Save changes?”が表示されるので決定キーを押して終了します。“Snap”を選択した場合には移行時間の設定はありません。

2-B Cross Fade の設定

“Effect Type?”の表示画面で“Cross Fade”を選択し決定キーをおします。次にスタートカラーのベースとなる色を選択し調整を行います。色の選択方法は2-A-1 Fixed Colorの設定をご参照ください。続いて同様にエンドカラーの色も設定します。色の調整が終わると次に時間の調整を行います。まずHold Time(min)と表示されるので、選択した色の保持時間の分を入力し、続いて“Hold Time(sec)”で秒を入力します。次に“Fade time(min)”でフェードに要する時間を分で、Fade time(sec)で秒を入力します。次に“Offset?”の表示画面でオフセットの設定をします。オフセット時間の設定をすると、複数のアドレス間でフェード時間にずれが発生し、流れるような演出が可能になります。これで演出の設定が完了するので、決定キーでテスト、呼び出し方法の設定に移ります。以降の手順は2-A-2をご参照ください。

2-C Rainbow の設定

“Effect Type?”の表示画面で“Rainbow”を選択し決定キーをおします。次に1サイクルの時間を設定します。Time(min)で分を、続いてTime(sec)で秒を入力します。次に“Offset”でライト間の色のずれを設定します。ここを0にするとカラーウォッシュになります。最後に“Direction”で色の循環方向を決定します。“RGB up”にすると色の流れる順番は赤→緑→青となり、“RGB down”にするとその反対となります。以降の詳細は2-A-2をご参照ください。

2-D Random Color の設定

“Effect Type?”の表示画面で“Random Color”を選択し決定キーをおします。次に一色当りの保持時間（Hold time）と次の色への移行時間（Fade time）を分(min)、秒(sec)の順で入力します。次に“Offset”でライト間のフェードのずれを設定します。最後に“Color Count”で表示する色の種類を決定します。（最大127色まで）以降の手順は2-A-2をご参照ください。

2-E Sparkleの設定

“Effect Type?”の表示画面で“Sparkle”を選択し決定キーをおします。次に、前景色（スパークル色）を設定します。色の設定方法に関しては2-A-1をご参照ください。前景色の次は同様に背景色の設定を行います。次に“Density?”で密度の設定をします。この数値が大きいと、一度にスパークルするドットの数が多くなります。次に、スパークルのフェードタイムを設定します。“Fade Time(min)”で分を、続いて“Fade Time(sec)”で秒を設定します。以降の手順は2-A-2をご参照ください。

2-F Color Sweep の設定

“Effect Type?”の表示画面で“Color Sweep”を選択し決定キーをおします。次に、前景色（スweep色）を設定します。色の設定方法に関しては2-A-1をご参照ください。前景色の次は同様に背景色の設定を行います。次に効果の時間を設定します。“Time(min)”で分を、続いて“Time(sec)”で秒を設定します。以降の手順は2-A-2をご参照ください。

2-G Color Streakの設定

“Effect Type?”の表示画面で“Color Streak”を選択し決定キーをおします。次に、前景色（ストリーク色）を設定します。色の設定方法に関しては2-A-1をご参照ください。前景色の次は同様に背景色の設定を行います。次に効果の時間を設定します。“Time(min)”で分を、続いて“Time(sec)”で秒を設定します。最後に“Width?”でストリークを行うライトの数を設定します。以降の手順は2-A-2をご参照ください。

4-3. タイマー（Alarm）の設定

iPlayer3では最大15個までの異なる呼び出し時間の設定を行うことができます。呼び出しの方法には以下のタイプがあります。

- ・ Specific Month/Day：指定した日付による呼び出し
- ・ Weekends：週末のみの呼び出し
- ・ Weekdays：ウイークデイのみの呼び出し
- ・ Everyday：毎日呼び出し
- ・ Sunday ~ Saturday：曜日を指定した呼び出し

又、演出を開始する時間については時刻を指定する方法（Time of Day）と日の出又は日の入りの時刻（Astronomical）からスタートさせる方法があります。Astronomicalを使用する場合、あらかじめお使いになる場所の緯度、経度を設定する必要があります。設定方法については4-5「2.緯度、経度の設定」をご参照ください。

【注意】

全てのアラームは後押し優先で呼び出しを行います。優先度を個別につけることは出来ません。

1. Specific Month/Day (指定した日付による呼び出し) の設定
Config Mode から“Alarm”を選択し、さらに“Alarm number?” の表示画面で設定を行うアラームの番号を選択します。(最大15まで)
次に“Alarm Days?” で“Specific Month/Day”を選択します。



続いて“Alarm month?” で月を、“Alarm Days?” で日を入力します。
次に“Alarm Type”で“Time of day” (時間指定) を選択します。
“Astronomical”で設定を行う場合には3. Astronomicalの設定の項をご参照ください。

“Time of day”を選択すると呼び出す時間をHour (時)、Min (分)、Sec (秒) の順で入力していきます。次に“Show number”の画面で、再生したい演出の番号を設定します。

最後に“Save Changes”の表示画面で“Yes”を選択して決定キーを押すと設定は完了です。

2. その他のタイマー設定
Config Mode から“Alarm”を選択し、さらに“Alarm number?” の表示画面で設定を行うアラームの番号を選択します。(最大15まで)
次に“Alarm Days?”で“Every day” (毎日)、“Week days” (月～金)、“Week ends” (週末)、“Sunday” (日曜)～“Saturday” (土曜)の中から、希望する呼び出し方法を選択します。

次に“Alarm Type”で“Time of day” (時間指定) を選択します。
“Astronomical”で設定を行う場合には3. Astronomical の設定の項をご参照ください。

“Time of day”を選択すると呼び出す時間をHour (時)、Min (分)、Sec (秒) の順で入力していきます。次に“Show number”の画面で、再生したい演出の番号を設定します。

最後に“Save Changes”の表示画面で“Yes”を選択して決定キーを押すと設定は完了です。

3. Astronomical の設定
各タイマーの設定の中で、“Alarm Type”を“Astronomical”にすることによって、日の出/日の入りの時間によりタイマー呼び出しが可能になります。
【注意】
Astronomicalを使用する場合、あらかじめお使いになる場所の緯度、経度を設定する必要があります。設定方法については4-5「2. 緯度、経度の設定」をご参照ください。

まず、“Sunrise/Sunset?”と表示されるので、日の出 (Sunrise) 又は日の入り (Sunset) を選択します。日の出と日の入りの時間については設定された緯度、経度の情報より自動的に算出されます。現在の日の出、日の入り時間を確認したい場合には4-5「5. ハードウェア情報」の確認の項をご参照ください。

次にオフセットの設定をします。日の出/日の入り時間からやや遅れて点灯開始したい場合にはこちらの設定を行います。“Alarm Hour Offset”で時間を、“Alarm min offset”で分を設定します。
続いて“Show number”で呼び出す演出の番号を入

力し、“Save changes”で“Yes”を選択すると、設定は完了です。

4-4. ライトアドレスのテストと設定

- 4-4-1. ライトアドレスのテスト
1. Config Mode から“Set up”を選択します。
“Set up Menu”の中から“Test DMX Addr”を選択します。
“Light Number?”と表示されるのでテストしたいライトアドレスを入力し、決定キーを押します。iPlayer3と接続されているシステム上に同一のアドレスがあれば、ライトが点灯します。

4-4-2. ライトアドレスの設定
Config Mode から“Set up”を選択します。
“Set up Menu”の中から“Set Fixture DMX Add”を選択します。
“Set DMX Address”の表示画面で以下の2つの設定方法を選択することができます。

- AllSame Address: iPlayer 3と接続されている全てのライトに同一のアドレスを設定します。
- By Serial Number: ライト固有のシリアルナンバーを指定して、そのライトにのみアドレスを設定します。

1. All Same Address の設定
“AllSame Address”を選択すると、“Light Number?”と表示されるので、設定したいアドレスを入力します。次の画面は確認画面になります。
“Program DMX Addr?”と表示されたら、確認キーを押してアドレスの書き込みを実行します。完了したら、テスト画面に移ります。“Test DMX Addr?”で確認キーを押すと設定したアドレスのライトがテスト点灯をします。これで設定は完了です。

2. By Serial Number の設定
“By Serial Number”を選択すると、始めに“S/N Byte 1”の画面で8桁で構成されるシリアルナンバーの始めの2桁を入力します。
続いて“S/N Byte 2”で次の2桁を入力し、以下同様の手順ですべてのシリアルナンバーを入力します。入力が完了すると、“Confirm S/N?”が表示され、同時にシリアルナンバーを入力されたライトが白色点灯をします。白色点灯したライトとシリアルナンバーが一致していることを確認してから確認キーを押します。



次に“Light Number?”で設定したいライトアドレスを入力します。
次の画面は確認画面になります。
“Program DMX Addr?”と表示されたら、確認キーを押してアドレスの書き込みを実行します。完了したら、テスト画面に移ります。“Test DMX Addr?”で確認キーを押すと設定したアドレスのライトがテスト点灯をします。これで設定は完了です。

4-5. その他の設定

1. シリアルポートの設定
iPlayer3には2つのシリアルポートがあり、それぞれにオプションのキーパッドを接続する事ができます。キーパッドには8つの呼び出しボタンがあるので最大16個の演出が呼び出し可能です。iPlayer3本体のボタンも利用すると最大で21個の演出を呼び出すことができます。
シリアルポートにはそれぞれベースとなるトリガーナンバーを設定する必要があります。例えばシリアルポート1のベーストリガーを6とするとシリアル

ポート1に接続されたキーパッドは6～13までの8つの演出を呼び出すことが可能になります。

Config Mode から“Set up”を選択します。
“Set up Menu”の中から“Cfg SerialPort”を選択します。
“Port1 Base Trig?”でポート1のベーストリガーを設定し、“Port2 Base Trig?”でポート2のベーストリガーを設定すれば完了です。

2. 緯度、経度の設定
Config Mode から“Set up”を選択します。
“Set up Menu”の中から“Set Lat/Log”選択します。
“Latitude (int)?”で緯度の整数部、“Latitude (Frac)?”で緯度の小数点以下を設定し、“Longitude (int)?”で経度の整数部、“Longitude (Frac)?”で経度の小数点以下を入力します。
次に“Time Zone?”でタイムゾーンを設定します。日本の場合は“GMT + 9”にします。最後にサマータイムを設定する場合には“DST?”を“Yes”にすれば完了です。

3. LCD 設定
LCD のコントラストと輝度を設定します。
Config Mode から“Set up”を選択します。
“Set up Menu”の中から“LCD Setting”を選択します。
“LCD Contrast?”でコントラストを0～10段階で設定し、次に“LCD Brightness?”で輝度を0～10段階で設定します。

4. サウンド設定
ボリュームを調整します。
Config Mode から“Set up”を選択します。
“Set up Menu”の中から“Sound Setting”を選択します。
“Volume?”で操作音を1～3段階で調整します。

5. ハードウェア情報の確認
iPlayer3の情報が確認できます。
Config Mode から“Info”を選択します。

Version : ファームウェアのバージョンが確認できます。

Memory Usage : メモリーの使用状況が確認できます。

Astronomical Clock : 本日の日の出、日の入り時刻が確認できます。

5. 機器の接続方法

5-1. iPlayer 3 の接続

- 付属の電源コードをiPlayer3本体の電源入力コネクタに差し込みます。
- データケーブルをDMXポート1、2に差し込みます。

上記の作業終了後電源を入れてください
※iPlayer3の接続方法については別紙「iPlayer3 取付方法」をご参照ください。

5-2. Keypad (別売) の接続

- 1台使用の場合は、シリアルポート1に接続します。
- 2台使用の場合は、シリアルポート1と2にそれぞれ接続します。

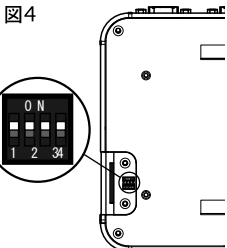
※接続の作業時には必ず電源を切って行ってください。

5-3. PC の接続

ColorPlay 3で作成したデータをダウンロードする時に、USBケーブル(付属)を使用して、iPlayer3と接続します。
ダウンロード後は、PC及びUSBケーブルを外します。
※ダウンロードの詳細についてはColorPlay 3のユーザーガイドをご参照ください。

6. iPlayer 3 ディップスイッチについて

iPlayer3の裏面パネルをはずすと、SDメモリーのカードスロット脇にディップスイッチがあり、下記の設定を行うことができます。
裏面パネルはパネル上の2箇所のネジをゆるめて取り外します。



スイッチ1: ON = シリアルポート1のPin4から+5VDCを出力
スイッチ2: ON = シリアルポート2のPin4から+5VDCを出力
スイッチ3: 使用しません。
スイッチ4: ON = 本体の設定キーが使用可能
OFF = 設定キーのロック

7. 定格・使用環境

・定格

定格入力電圧	定格入力電流	定格消費電力
AC100~240V 50Hz/60Hz	50mA~25mA	5W

・使用環境

場所	温度	湿度
屋内	-10℃～40℃	0%～95% 結露なし

8. 安全上のご注意

◆器具のご使用について

警告

- 火災のおそれがあります
・不安定な場所で使用しないでください。
- 器具を布・紙などでおおったりしないでください。
- また、カーテン・揮発物などの燃えやすいものに近づけないでください。



- 感電・火災のおそれがあります
・器具及び部品の改造をしないでください。
- ・器具のすきまに、異物 (金属や燃えやすい物など) を差し込まないでください。
- ・電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。また、電源コードに重いものをのせたり、電源具に近づけたりしないでください。



- 感電・火災のおそれがあります
・異常時 (煙が出たり、変なにおいがする等) には、速やかに電源を切ってお買い上げの販売店にご相談ください。



- 感電のおそれがあります
・器具のお手入れの際には、必ず電源を切ってください。

注意

- ・必ずメンテナンス可能な場所に設置してください。
- ・器具に水をかけたり、水の中につけて洗わないでください。
感電や火災の原因となることがあります。
- ・器具の近くに温度の高くなるストーブや、発熱体を置かないようにしてください。器具の変形や火災の原因となることがあります。
- ・器具に表示された定格電圧以外の電圧で、使用しないでくだ

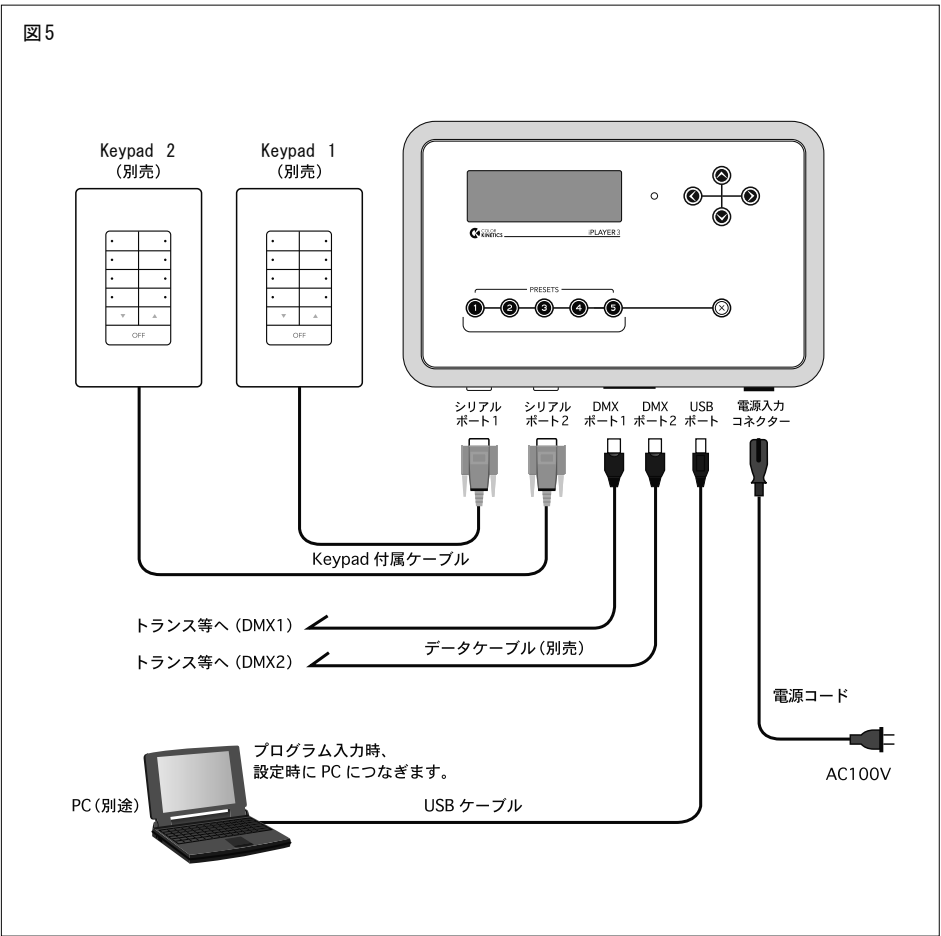


図5

さい。定格電圧を超えた電圧でご使用になりますと、火災の原因となります。

- ・この器具は屋内使用器具ですが、風呂場等の湿気や水気の多い場所、直射日光の当たる場所では使用できません。また、屋外では使用しないでください。感電・火災の原因となります。
- ・器具の保守・お手入れ等で、無理に回転させたり、引っ張ったり、振動や衝撃を加えたりしないでください。器具の転倒や落下によるけがの原因となることがあります。
- ・ぬれた手で器具に触れないでください。感電の原因となります。
- ・明るく安全に使用していただくために、器具を定期的に (6 ヶ月に1度程度) 清掃、点検してください。器具のネジや部品のゆるみがないか、損傷、脱落、コードの痛みがないかお調べください。
- ・プラグやコンセント回りのゴミやほこりは、乾いたやわらかい布で、よくふいて取り除いてください。発火・火災の原因となることがあります。

「ストロボ効果」についての注意

- ・ストロボ効果は一部の影響を受けやすい人に、てんかん発作を誘発する可能性があると言われています。食品医薬品局によれば、米国政府はまだ関連製品についての警告を出していません。ストロボ効果の使用については、いくつかの国際機関が点滅回数を毎秒4回以下に保つことを勧めています。この程度であれば点滅に敏感でも発作を誘発する危険性が減ると思われます。この点滅回数は直視する閃光全体に適用される目安ですが、ストロボ効果を2つ以上の製品を使用する場合は、同時に点滅が起こるようにしてください。また、ストロボを使用する際は事故を未然に防ぐために、ストロボを使用しているので注意するよう呼びかけることをお勧めします。

お願い

- ・ぬれた手で器具にさわらないでください。
- ・器具のお手入れの際に、ガソリンやシンナー、ベンジン等の揮発物でふいたり、殺虫剤をかけたりしないでください。変色・破損の原因となります。汚れがひどい場合は、やわらかい布を中性洗剤に浸し、よくしぼってふきとり、乾い

たやわらかい布で仕上げてください。

- ・お読みになりましたら、このユーザーガイドは、いつでも見られる所に、大切に保存してください。ご不明な点がございましたら、販売店にご相談ください。

9. 保証について

本製品の保証期間はご購入日より1年間となっております。保証期間中に、ユーザーガイド等の注意書きにしたがった正常な状態で本製品が故障した場合には、当社所定の方法により無料で修理または交換をさせていただきます。ご購入後の販売店もしくは、㈱フィリップスエレクトロニクスジャパンまでご連絡ください。(尚、特別に訪問を行った場合や引き取りサービスをご利用いただいた場合には、別途サービス料を申し受けます。)
保証期間中でも、次のような場合には修理・交換の対象となりませんのでご了承ください。
・ご使用上の誤り、または改造、誤接続による故障および損傷の場合。
・火災・地震・水害・落雷およびその他の天災地変、公害、塩害、ガス害、異常電圧や指定外の電源使用による故障および損傷の場合。
・接続している他の機器に起因して本製品に生じた故障および損傷の場合。
・ご購入後の輸送や移動および落下等、不適当なお取り扱いにより生じた故障及び損傷の場合。

当社は、当社の照明製品及び制御装置の購入者に対し、クロマコアを個人的に使用できるが譲渡不可能な使用权を許諾しています。クロマコアは当社が特許を取得した技術で、イルミネーション、ディスプレイ、及びデザインに使用されるLEDベースの色変化照明器具をネットワーク上で制御できる技術です。この使用許諾権は当社だけがその付与を認めるものであり、当社の承認なしに譲渡することはできません。LEDベースの色変化照明をネットワーク制御する技術を使って、他の製品を設計、複製、製造、又は販売することは禁止されるかもしれませんが、そのような行為はこの文面では許可されていません。